

血中ウイルス量(HIV-1 RNA量)検査に関するお知らせ

新しい検査法(リアルタイムPCR法;TaqMan法)では従来法とHIV-1 RNA測定値の傾向が異なることがあります

1. 東京医科大学病院では、2007年12月より、HIV-1 RNAの測定のために、感度が高く、精密に測定が可能な新しい検査法としてリアルタイムPCR法(TaqMan法)を導入しました。
2. リアルタイムPCR法(TaqMan法)は既に欧米でも使用されている検査方法です。
3. HAART治療中の患者さんにおいて、従来法(アンプリコア高感度法)では50コピー/mL未満で安定していたにもかかわらず、新しい検査法では、しばしば低濃度のRNAが検出されることが経験されています。(これは日本における全国的な現象です。)
4. 東京医科大学病院における両測定法の比較調査で、現在実施中の新しい検査法は、従来法より高い測定値となる傾向があることを確認しました。
5. 臨床試験では、両法ともほぼ同じ検査結果を示していたため、今回、新しい検査法での測定値が高くなった原因は、今のところ不明です。
6. 東京医科大学病院臨床検査医学科では、検査法の製造会社および検査実施会社と協力して、原因の究明に当たっています。
7. 現時点では、このような低濃度のRNAの検出と、病気の進行や薬剤耐性の発現などとの関係は明らかではありません。
8. RNAが400コピー/mLを越えて、増加を続けるような事態が発生しない限り、病気の悪化や治療の変更を考える必要はないと考えています。
9. 検査法の特長など原因究明の調査・検討結果と、それに基づく今後の対応方法については確定し次第、ご報告いたします。

患者様には、RNA検査の結果について、ご心配をお掛けし、誠に申し訳ありません。問題解決に向けて努力しておりますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

東京医科大学病院 臨床検査医学科 主任教授 福武 勝幸

アンプリコア(高感度法)50コピー/mL未満を示した患者様のTaqManの測定結果 (コピー/mL)

